

第2WG 評価コメント

評価者のコメント

事業番号2-2 レセプトオンライン導入のための機器の整備等の補助

補助の前提であった、完全オンライン化が延期されているため、緊急性のある事業ではなく、いったん支給を停止すべき。

50%の補助率、ハード・ソフトの値段の根拠が不明。また、リースの場合も検討すべき。さらに、ハード機器が他の用途に使用されるのであれば、補助のしすぎと考えられる。

診療報酬の中にインセンティブを入れることについて検討すべき。

医療統計の充実によって、国民経済にどんな利益がもたらされるのか説明が欲しい。

医療業界のみの支援には問題がある。

補助対象経費の見積りが、業界寄りであり、市場の適正価格になっていない。コストは、競争入札などで価格を決定すべき。

レセプトの電子化は、医療機関にとっての本来的な業務なので、ハード機器の更新時期にあわせて自ら行うべきであって、国費を投じるべきではない。

レセプトのオンライン化自体は、医療費の審査・分析等の効率化や、医療情報の集積のため意義があり、進めるべき。

WGの評価結果

レセプトオンライン導入のための機器の整備等の補助

予算計上見送り

(廃止5名 民間(医療機関)1名 予算計上見送り7名)

予算要求縮減:なし)

とりまとめコメント

「来年度の予算計上は見送り」と結論づける。理由は、次のとおり。

補助金の額、対象、値段があいまいであること、1/2の補助率の根拠が不十分なこと、補助金以外のインセンティブ(診療報酬による方法等)の検討が不十分なことである。

オンラインの義務化が廃止されている中、補助金がない場合に、医療機関の負担で導入が進むのかといった実証データがないことから、今後の導入状況を見守りながら、補助の必要性について、検証することが必要。

オンライン化の実施方法をさらに検討し、国税の投入の必要性について慎重に吟味する必要があると考える。